エレクティブクラークシップ　感想

141103　山本　英明

　五年生の春にエレクティブクラークシップというものの存在を知り、海外に行けるということを教えられて「海外に行くのは大変すぎじゃないか」と思っていた人間の感想です。

　エレクティブクラークシップについて何を考えてもあまり積極的に行くモチベーションが得られなかった私は、ただ普通に実習しに病院に行っていました。クリクラが始まる直前に海外旅行に行った私は当初旅の欲求は充足していて、何事もなく過ごしていました。しかし、ほんの３ヶ月後にはまた旅の欲求が勃興してしまいました。これが海外エレクラをすることにした最初の理由だと思います。

　私は今回國立台湾大学に伺ったのですが、実は台湾自体は以前家族旅行で行ったことがありました。にもかかわらず台湾を実習先に選んだのは東洋医学という特殊な医療が存在するからです。実習先の国を選ぶにあたって何か特別なことを学んでみたいと思った私は漢方に目を付けたのです。結局台湾行きが決まった後に実は台湾で漢方の実習コースは今年は選択不可と知らされ、以前から興味のある小児科に変更してしまったんですけどね。

　この感想文を読む人たちは私が台湾でどんな医療を学んだかと行ったことよりも、実習の大まかな流れを知りたいと思っているはずなのでそれを重点的に書いていきたいと思います。

　まずは出国前です。もちろん台湾大学の公務員とお連絡を取りますが、メインで連絡を取るのはコンタクトスチューデントです。台湾大学のオフィスは書類の締め切りを設定はしてきますが、基本的に処理の進行がフィードバックされることはありません。もしも皆さんに同じことが起こってもコンタクトスチューデントにお願いすればどうにかしてもらえます。こちらが申し訳なくなるくらい親身に対応してくれるので台湾をエレクラにと考えている人はご安心ください。ちなみにちゃんとすべての手続きがうまくできたと確認が取れたのは私の場合出国二日前でした。

　台湾入り後のことです。フライトの後、なんとコンタクトスチューデントが空港まで迎えに来てくれました。その後住む寮に案内してもらい、実習開始の日の集合場所と時間まで教えてもらえました。さらに言うと、その後近所の100円ショップやパン屋などの生活に必要な情報も一通り教えてくれました。正直言ってトランクに荷物さえしっかりまとめられていればまず大丈夫というほど彼らの待遇は手厚く、ありがたかったです。

　しかしそんな台湾の実習にも欠点はあります。それは日常診療に中国語が溢れているということです（当然ですが）。毎日ある病棟回診はすべて中国語でしたし、カンファもディスカッションは中国語でした。逆に言うとそれ以外は英語で行われているので外国人が日本で実習するのよりは遥かにいい環境だとは思いますが。。。患者さんの情報も全て英語で記述しているので患者情報の取得にそこまで難渋するということもなかったです。台湾の医学教育は全て英語で行われているため、先生方や生徒は疾患を英語で説明する語彙を持ち合わせているようでした。そのような背景もあって英語だけでどうにかできるようにはなっている感じです。（日本語で勉強しているよと言ったらうらやましがられました。それはそうですよね）

　私が実習に言ったときは丁度旧正月の時期と重なり、最後の一週間はお休みとなりました。旧正月期間中はお店がほとんど開いていないらしく、それを見かねたコンタクトスチューデントが私ともう一人日本人交換留学生を実家に泊めてくれました。それが私の一番心に残ったおもてなしです。台湾大学の学生は時間を割いて観光地の案内もして売れましたし、とにかく充実した留学でした。台湾の学生はよく日本に来るとのことなので、次は私がおもてなしする番だと思っております。

M3 山本　英明